

第35回

うつのみやこども賞だより

平成30年度 3回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『波うちぎわのシアン』

斎藤倫／著（偕成社）



～読んだ本の感想より～

- カモメの目線で見ているときがあって面白かった。シアンが不思議な力を持っていてびっくりした。
- 最後の「ここも、ちいさなやねだから」というシアンの言葉が感動した。
- 無口でおとなしいけれど、実は複雑な過去があったシアンの物語を、ぜひほかの人にも読んでほしいと思いました。
- フジ先生たちの、生きていてくれてうれしい、という気持ちがだれにでもあることをいろんな人に知ってほしいです。
- シアンをふくんだ子どもたちとの生活を、白ねこカモメの目線で語っている所がよかったです。

●シアンという名前の意味がとてもすてきだなと思いました。島の日じょう的なお話で、心がおちつく本でした。

『となりの火星人』

工藤純子／著（講談社）

- 身近な火星人というネーミングがおもしろい。例えが良かった。内容も共感が多く、とてもいい本だと思います。
- どの子ども人と違うけれど、人と違っていいという話でした。みんながんばっていると思いました。
- 短ペン集のようになっているがすべてつながっているところがおもしろかった。人物それぞれの感情がしっかり感じられてよかった。
- 読んでいて心に留めておきたい言葉がたくさんあった。
- それぞれ、事情があるけど富士山ではみんながわかちあえ、協力していて感動した。

『その景色をさがして』

中山聖子／著（PHP 研究所）

- お母さんをうしなったトーコは、お母さんが行きたがって居場所に行くことができよかったと思った。トーコの悲しみと喜びが伝わってきた。
- 亡くなったお母さんがいっしょに行きたがっていたところをさがすときの、ドキドキしたりうれしかったり、かなしかったりすることが、お話の中でいっぱいあってよかった。
- 主人公藤子のつらいことがあっても、くじけないすがたに感動し、見直そうと思いました。
- 自分もそんなきれいな景色を見たいなと思った。
- お母さんがいきたがっていた場所をさがして、最後にみつけてよかったです。

『ピワイチ！』

横山充男／著（文研出版）

- 好奇心がいっぱいの物語でした。この本は表現力がゆたかでした。
- 自転車でおしりがいたくなっていて、プチプチをついけていて、わたしもつきたいと思った。
- みんなつらくてもがんばっていて、私もこんなときがあってもがんばろうと思いました。
- 5人がピワイチを無事クリアした時、私までうれしかった。
- 斗真たちが、ピワイチにちょうせんして、苦しいときもあったけれど、協力してゴールしたときが印象的だった。